

窓の外とのくれて久しみながめやるいづれの里  
もともしびの見ゆ

瑞々し田植おはれり目路とほく空をうつさぬ  
早苗田もなし

裏白の葉をゆるがして七月の雑木山ゆく風の  
みちあり

### 後記

一、本書の爲に新しく稿を起した他の大部分は我等同人の毎月發行せる雑誌「無碍道」に掲載したものであり、「よく聞く」・「宗教に於ける問ひ」は雑誌「法爾に」、「日本性情と佛教」は本願寺新報に、「地獄は一定すみかぞかし」・「名號成就の願心」・「宗教するとは」は雑誌「梵響」に掲載したものである。

一、表紙の文字は高田専修寺藏の尊號眞像銘文の祖師の眞筆を拜寫させて載きました。



920  
184

終

